



福山平成大学 FD ニュースレター No. 9



発行：福山平成大学
FD 推進委員会
〒 720-0001
広島県福山市御幸町
上岩成正戸 117-1
084(972)5001(代)
fd@heisei-u.ac.jp

目 次

第8回「私の授業発表会」	-----	1
1. 初等教科教育法（生活）-小学校教育で必要な実践力を養うために-（林原 慎准教授）	-----	1
2. 初等教科教育法（国語）-学生の気づきを重視した授業をめざして-（長岡由記講師）	-----	3
平成24年度FD研修会報告	-----	5
「困り感のある学生、困った学生への支援」-大学での連携と協働を考える-	-----	
（大西理恵子講師）	-----	5
平成24年度FD講習会報告「基本統計」-福井正康教授による統計講座-	-----	6
Web学生写真台帳の閲覧状況	-----	6
平成24年度学生による授業アンケート調査結果	-----	7
平成24年度FD委員会活動記録	-----	11

第8回「私の授業発表会」

平成25年3月8日に、平成24年度の「私の授業発表会」が大会議室で開催されました。今回は、福祉健康学部こども学科の2名の先生による初等教科教育法の授業について、ご自身の授業での工夫や、相手の先生の授業の観察結果の紹介がありました。また、発表後には熱心な質疑応答があり、有意義な発表会になりました。

発表 1

初等教科教育法（生活） ～小学校教育で必要な実践力を養うために～

福祉健康学部こども学科 准教授
林原 慎

1. 授業概要

本講義は小学校教員免許状取得のために必要な教職科目であり、2年次後期に配当されている。本講義のねらいは、生活科の授業方法について具体的な実践例をもとに学習し、学習者にとって効果的な授業方法について理解し、実践する力を育むことである。講義は、学習指導案の作成や模擬授業を行い、実践的知識および技術を体験的に習得できるよう進めている。通常3年次後期において実施される4週間の教育実習にむけて、より実践的な力を養う必要性も踏まえて授業を展開し、特に、生活科は小学校低学年にしかないので、活動を多く含めていくという授業の特性を理解させるような授業をめざしている。



2. 授業での工夫

初等教科教育法は、内容論を踏まえた上で、実践的な方法論を学ぶ講義という位置づけである。そこで、授業での工夫として次の3点によって、実践的な授業方法を学ばせている。まず1点目として、カリキュラムの系統性を意識することを挙げる。2年次前期にある初等教科教育法(社会)ではグループで授業を作り、1時間分の授業を実施させる。当該授業の初等教科教育法(生活)は、2年次後期一人で授業を作り、導入10分間を実施させる。3年次前期にある初等教科教育法(英語)では、一人で授業を作り、1時間分を実施させるというふうに、段階的に授業経験をさせる工夫をしている。また、低学年は集中力が続かないという特性をもつことから、生活科の模擬授業では、導入でいかに児童の興味・関心を高めるのかという工夫を学生自身に考えさせ、一人10分間の模擬授業を実践させている。2点目としては、低学年の特性を理解させるために、低学年を対象とした活動を体験させたり、低学年の児童の思考や動きを予想させたりすることである。具体的には、授業者が実際に低学年向けの活動や発問などを実施してみせたり、実際の授業の様子をビデオで視聴したりする。また、野外での活動を行わせるためには、事前にどのような準備が必要か議論させた上で、活動を実際に実行させたり、活動用のワークシートを作成させたりする。3点目として、学生同士の相互評価を取り入れ客観的に授業を観察させることである。模擬授業を行うだけでなく、しっかりと参観し相互評価させることで授業を開発する視点を鍛えることができる。さらに、評価ワークシートに授業での気づきを記入させ、模擬授業を振り返ることで批判的思考力を高めることも可能となる。

3. 当該授業の課題

近年、小学校現場はさまざまな課題を抱えている。実際に教育現場で求められている人材とは、すぐに学級担任ができる実践力を備えた人材、積極的で責任感のある人材、協調性を備えコミュニケーション能力のある人材、精神的なたくましさを備えた人材、確かな学力を養うための授業力を備えた人材、前向きで成長しようとする意思のある人材などである。こうした(教育現場に必要とされる)能力を持ち合わせた人材を4年間で育てるのは、容易なことではない。今後はカリキュラムの系統性を学生の視点から考えてより細かく精査し、どのようなステップを経て学生を鍛え教育現場へ送り出していけばいいのか、学科教員あるいは大学教員全体で共通に認識していかなければならないと思われる。また、自分の担当する教科がどのような位置づけにあり、どのようなことが教員養成の視点と学生の実態の視点から求められているのかをしっかりと把握しなければならない。そのために、今回の「私の授業発表会」は、有意義な研修となり得ることを実感することができた。

観察者コメント 1

林原先生の授業を拝見して

福祉健康学部こども学科 講師
長岡 由記



林原先生の授業「初等教科教育法(生活)」を参観して思ったことは、学生の表情が明るく、積極的に取り組む雰囲気に包まれているということでした。この授業は、実際の小学校の教室を模したこども学科棟の3階で行われており、教室に入った瞬間から小学校の教室にもあるような独特な緊張感と期待感が漂っていました。授業「初等教科教育法」では共通して模擬授業を課しているのですが、その方法はそれぞれの教科によって異なっており、どのような方法で

模擬授業を設定するのかという点に各授業の特徴を見ることができます。生活科では、特に次にあげる 2 点にその特徴をみてとることができました。

(1) 「導入部分」という同じ条件で、6 人の学生がそれぞれ模擬授業を行う。

低学年を対象とした授業ということもあり、どのように児童の興味・関心を引きつけるのかということに焦点を当て、「授業の導入部分を行う」という条件で各自が学習指導案を作成し、授業を行うという方式が採られていました。同じ条件で行うことで、模擬授業者の特性（良い点や課題点を含めて）が分かりやすく、それぞれの持ち味を生かしながらさらに指導法を改善していくためにはどうしたらよいのかを、教室全体で考えることができていました。

(2) 「授業評価シート」に、評価の視点が明記されている。

授業を行うためにどのような点に気をつけるべきなのかという要点が、予め振り返りシートに評価項目として提示されていました。このように評価項目を明記することで、模擬授業を行う学生にとっては授業を行うまでの留意点が分かり、児童役の学生にとってはどの点に注目して授業（および授業者）を評価したら良いのか分かるため、授業後の意見交換にも繋がっていました。

今回、林原先生の授業を参観させていただく機会を得たことにより、小学校教員養成のための授業間で連携を取りながら進めていくことの重要性にも気付くことができました。ありがとうございました。

発表 2

初等教科教育法（国語） ～学生の気づきを重視した授業をめざして～

福祉健康学部こども学科 講師
長岡 由記

1. 授業概要

本講「初等教科教育法（国語）」は、小学校教員免許を取得するための必修科目であり、2 年次後期に開講されている。1 年次前期開講「初等国語 I」および 2 年次後期開講「初等国語 II」において国語科教育理論を学び、その知識を基礎としながら国語科学習指導案の作成ならびに模擬授業を行い、指導法の考案と基礎的な指導技術力を身につけることを目標としている。受講生は 26 名である。模擬授業は 1 グループ 3 名（ないし 2 名）で、1 単位時間（45 分）行うこととした。模擬授業を行う際の授業過程は、①資料配布、学習指導案・教材文の確認②模擬授業③振り返り（個人：ワークシートに記入）④意見交換会（全体：授業者振り返り→意見交換）⑤授業担当者コメント⑥学習のまとめ、の 6 段階で行った。

2. 当該授業での工夫

来年度実施される小学校実習を見据え、小学校国語科授業を行うための基礎的な知識と技能を身につけるために、以下の 3 点を重視した。

(1) 学習指導案作成の時間を設け、全体指導と個別指導を行う時間を確保する。

(2) 3 人（2 人）のグループを作り、全員が模擬授業を行うようにする。

(3) 授業の振り返りを行う（授業者の振り返り→意見交換



会)。

学習指導案は、グループで話し合いながら練り上げ、模擬授業後に各自再考するようにした。また、指導案審議も含め、模擬授業を振り返る時間を多く設けた。授業者だけでなく児童の立場からも率直な意見を述べ合い、受講者全員で意見交換することを通して国語科授業を行う上での留意点や重要事項について学生自身が見出していけるように配慮した。また、今後の更なる授業改善につなげるために、学生全員の意見を毎回ワークシートに記録し、その記録は模擬授業者に渡している。

3. 当該授業の課題

本授業の課題は、①模擬授業後に修正した学習指導案について、再度指導を行う時間が確保できなかったこと、②グループで模擬授業を行うという設定にしたことで話し合いながら授業を練り上げていくことができたが、一方で個人差が大きいグループもあり、一人一人の学習状況の把握と適切な支援が十分にできなかつたこと、である。特に、学習指導案作成については、さらに個別指導も含めて取り組んでいく必要があり、他の初等関連科目とも連携しながら継続して指導を行っていきたい。

観察者コメント 2

長岡先生の授業を拝見して

福祉健康学部こども学科 准教授

林原 慎

今回、長岡先生の初等教科教育法（国語）を拝見する機会を頂いた。普段より大学内の他の先生方はどのような授業をしているのか非常に興味があったが、直接拝見する機会はほとんどなかつた。学生から、「長岡先生の授業は分かりやすくて好きだ」というような話をこれまでにも聞いていたが、今回、実際に拝見してみて理解できた。長岡先生の授業はとにかく「丁寧」である。例えば、授業の流れを事前に計算していて学生に指導案をじっくり読ませたり、各学生に対して次に達成すべきことを意識化させたりしている。その結果、学生たちはそれぞれ自分の課題をもつて授業に臨んでいる。また、授業中の先生の表情や一つひとつの言葉から、学生からの意見を尊重し、学生の成長を促していることに気づかされた。さらに、模擬授業の準備として何度も学生と打ち合わせを重ね、細やかに事前検討をさせていることも伺われた。自分自身の授業を振り返ったとき、今後は長岡先生の授業を参考にし、少しでも改善できたらと考えさせられた。奇しくも「模擬授業を相互評価しながら参観する学生の気持ち」を今回の FD 研修の中で私自身が追体験できたことは大きな成果であったと感じた。



平成 24 年度 FD 研修会報告

困り感のある学生、困った学生への支援 —大学での連携と協働を考える—

福祉健康学部こども学科 大西理恵子 講師

平成 24 年 12 月 13 日に、学内から福祉健康学部こども学科の大西理恵子講師にお願いして、本年度の FD 研修会を開催しました。今年度は、「困り感のある学生、困った学生への支援—大学での連携と協働を考える—」というテーマのもと、近年増加している大学生の発達障がいへの理解と対応について、講義と演習形式の研修が行われました。



研修会の前半では、発達障がい学生の現状や障がいの特徴、支援例、組織的対応や連携の必要性などについて、講演形式で教職員間の共通認識と学生理解を深めました。

後半では、学内での連携を深めるために、学生支援のための学内資源を発掘し、共有するためのグループワークが行われました。学科ごとに有する学内資源や対応方法について、「実習やボランティアの機会を利用した学生指導（看護学科・こども学科）」「心理学や特別支援教育の専門家が在籍していること（こども学科）」「全学的に利用できる学生の居場所確保（福祉学科）」「一般教育科目における全学的な学生の情報提供（経営学科）」「教員間の情報共有や相談のための場所の提供（経営学科）」などの情報が寄せられ、利用可能な学内資源についての共通理解が得られました。学内の先生方から活発なご意見をいただき、有意義な時間になったと思います。

また、研修会に先立ち、学生の発達的・精神的問題に対する認識と教員自身のメンタルヘルスについての事前調査が行われました。調査の結果、60%以上の教員が授業や日常生活で対応に困る学生がいると回答しており、40%以上の教員が発達障がいや精神疾患のある学生を授業やゼミで担当した経験のあることが示されました。また、70%を超える教員が発達障がいや精神疾患について「ある程度知っている」または「よく知っている」と回答しており、多くの教員が学生の問題について関心を持ち、ある程度以上の知識を持っていることが示されました。これらの結果から、本学においても発達障がいや精神的問題を抱える学生に対応しなければいけない機会が多いこと、それらの問題について多くの教員は一定以上の理解があるものの、実際の対応に苦慮している様子がうかがえました。発達障がいなどの困難を抱える学生への支援は、ゼミ担当教員だけが担うには限界があり、全学的・組織的な対応が必要とされます。大学機関では学生相談室や学生支援室が中心となって各部署と連携しながら対応に当たることが望まれますが、本学においては学生相談室の利用は 10%程度に留まっており、今後、支援の中心としての機能を強化していくことが望まれます。さらに、教員自身のメンタルヘルスについては概ね平均的な数値でしたが、仕事自体のストレス度はやや高く認識されており、教職員自身の予防的メンタルヘルス支援の必要性も示唆されました。

さらに、大西講師より、調査で予め希望していた教員には、研修会後に個々の教員の事前調査についての「ストレス調査報告書」をいただきました。



平成 24 年度 FD 講習会報告

基本統計 —統計講座—

経営学部経営学科 福井正康 教授

平成 25 年 1 月 9 日に、福井正康教授による FD 講習会「統計講座」が、5103 コンピュータ室で開催されました。

この FD 講習会は、授業改善と研究への活用を目指して、毎年福井先生に取り組んでいただき、好評を得ています。今年度は、22 名の参加者が、福井先生が開発されたソフトウェアを利用して熱心に受講しました。今後パソコンを利用した授業改善に役立てていただければと思います。平成 25 年度にも FD 講習会を企画する予定ですので、多数の方の参加をお待ちしております。

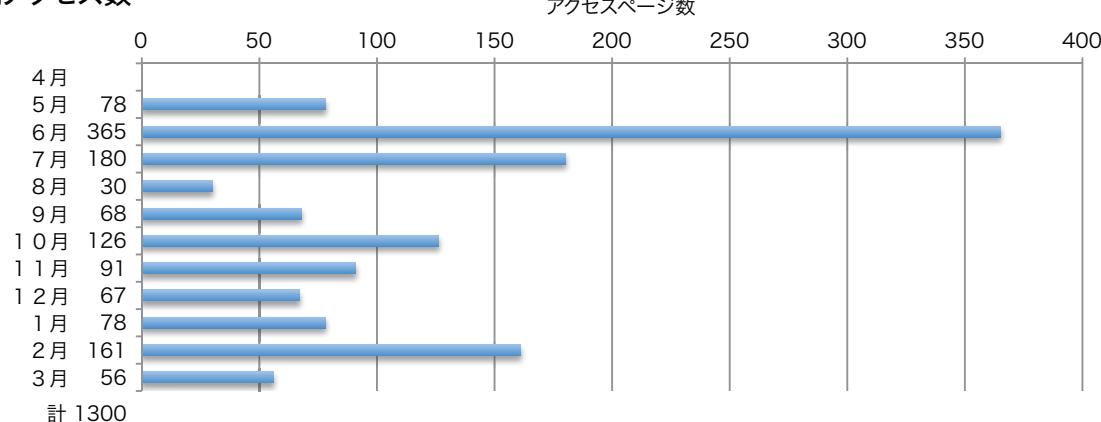


Web 学生写真台帳の閲覧状況

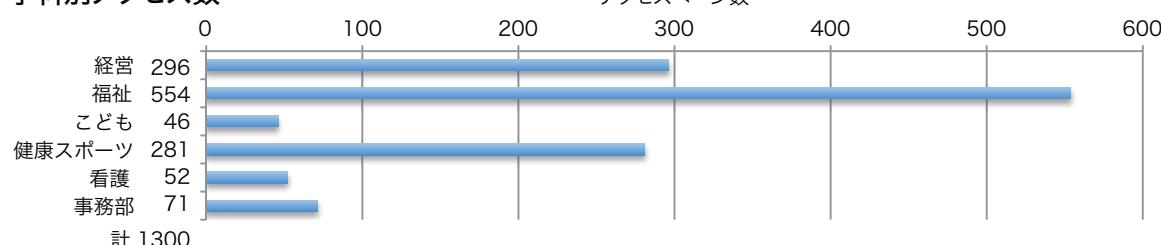
平成 24 年度は、学生写真台帳を、従来の CD 配布に代えて各先生方のパソコンから Web で閲覧する方式に変更しました。閲覧には、認証が必要で IP アドレスが登録してある教員室や事務室からのみ閲覧可能です。また、Web サーバは、専用の学内用サーバです。

Web 写真台帳は、5 月に FD 委員会委員による試用、6 月から全教職員に公開しました。アクセスログから作成した平成 25 年 3 月までの月別、アクセスした教員の所属学科別アクセス状況は、下図の通りです。延べ 1300 ページが閲覧され、学生指導に活用されました。

月別アクセス数



学科別アクセス数



平成 24 年度学生による授業アンケート調査結果

平成 24 年度は、昨年度までのアンケート実施方法と同じですが、無記名式から記名式に変更して実施しました。この変更により、成績および欠席回数とアンケート回答との関係などをみることができ、より詳細なデータ分析可能になります。アンケート調査結果を以下に示します。数值は平均値で示しており、従来と同様なデータですが、レーダチャートでグラフ化しています。

1. 調査概要

(1) 実施期間

前期：平成 24 年 7 月 9 日（月）から 31 日（火）

後期：平成 25 年 1 月 17 日（木）から 30 日（水）

(2) 対象科目

- ・演習・実習科目を除く全科目（履修者数 5 名未満の科目を除く）

(3) 実施科目数

前期：253 科目

後期：236 科目

(6) アンケート実施枚数

前期：10,097 枚

後期：7,789 枚

(5) 実施方法

- ・科目担当教員が、授業時間中にアンケート用紙を配布し、学生が回収して学務課に提出
- ・アンケート集計結果は、科目毎に科目担当教員に返却
- ・大学全体、学部・学科、学年別の集計結果は、各学部、学科に配布するとともに当 FD ニュースレター等で公表

(6) 設問

<授業に関する設問>

- Q 1. シラバス（授業概要）は、この授業の履修の決定や学習に役立った
Q 2. 受講にあたって、学習到達目標や注意事項などの説明・指導は、適切だった
Q 3. この授業の進度は、適切だった
Q 4. 教員の話し方は、聞き取りやすかった
Q 5. 板書や視聴覚機器は、見やすかった（聞きやすかった）
Q 6. 教員の説明・指導は、わかりやすかった
Q 7. 教室や実習・実技の環境・設備などは、適切だった
Q 8. この授業は、有意義だった

<学生の受講態度に関する設問>

- Q 9. この授業にきちんと出席した
Q 10. 受講マナー（遅刻・早退、私語など）は守れた
Q 11. 予習・復習・課題提出など、この授業に熱心に取り組んだ

(7) 回答方法

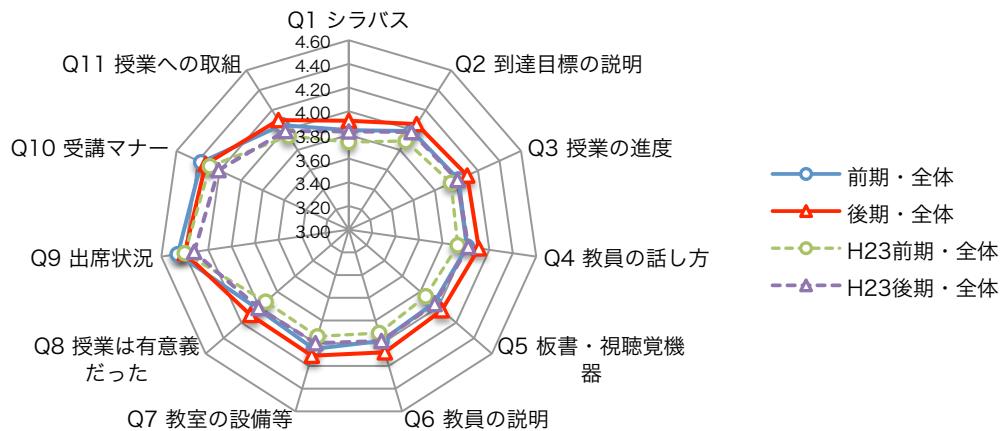
- ・5 段階評価 5：よくあてはまる
4：ややあてはまる
3：どちらともいえない、
2：あまりあてはまらない
1：全くあてはまらない）

(8) その他

- ・科目担当教員の自由設問および自由記述欄あり

2. 集計結果

2.1 大学全体



(平成 23 年度との比較)

	前期・全体	後期・全体	H23 前期・全体	H23 後期・全体
Q1 シラバス	3.84	3.92	3.74	3.83
Q2 到達目標の説明	3.99	4.06	3.89	3.98
Q3 授業の進度	4.02	4.10	3.95	4.01
Q4 教員の話し方	4.01	4.11	3.93	4.02
Q5 板書・視聴覚機器	3.95	4.04	3.86	3.96
Q6 教員の説明	3.98	4.08	3.91	3.98
Q7 教室の設備等	4.05	4.11	3.94	4.00
Q8 授業は有意義だった	4.02	4.10	3.93	4.01
Q9 出席状況	4.46	4.40	4.40	4.32
Q10 受講マナー	4.37	4.33	4.29	4.21
Q11 授業への取組	4.05	4.10	3.94	3.99

2.2 成績・欠席回数との相関

前期

	Q1-Q8平均	Q9-Q11平均	成績	欠席回数
Q1-Q8平均	1	0.39	0.11	0.03
Q9-Q11平均	0.39	1	0.25	-0.36
成績	0.11	0.25	1	-0.35
欠席回数	0.03	-0.36	-0.35	1

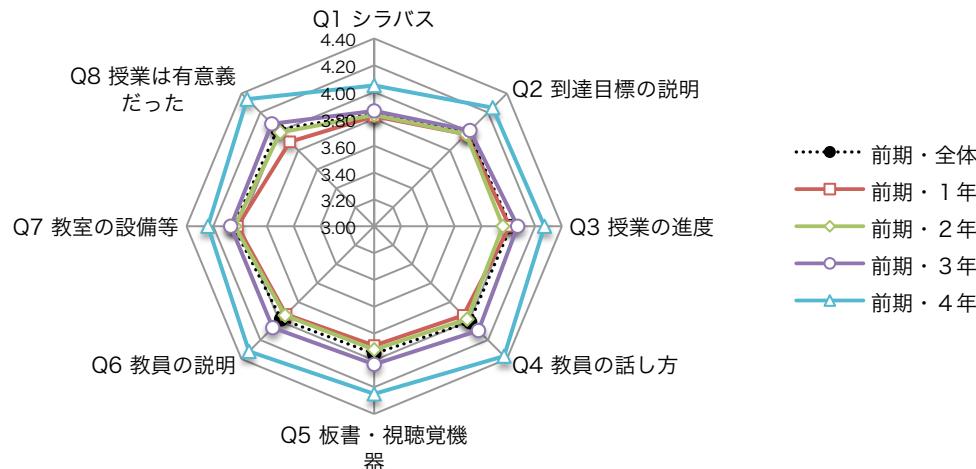
後期

	Q1-Q8平均	Q9-Q11平均	成績	欠席回数
Q1-Q8平均	1	0.45	0.11	0.00
Q9-Q11平均	0.45	1	0.23	-0.34
成績	0.11	0.23	1	-0.39
欠席回数	0.00	-0.34	-0.39	1

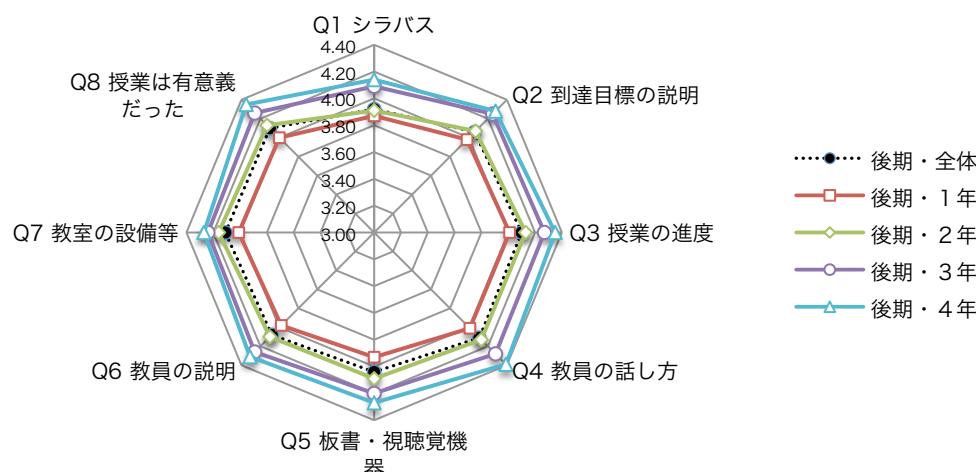
(Q1-Q8：授業に関する設問、Q9-Q11：受講態度に関する設問)

2.3 学年別

前期 :



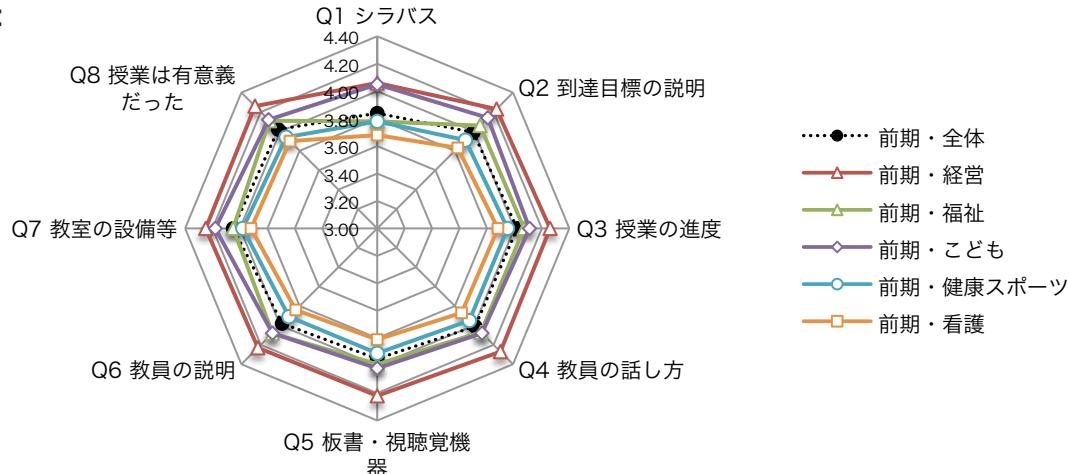
後期 :



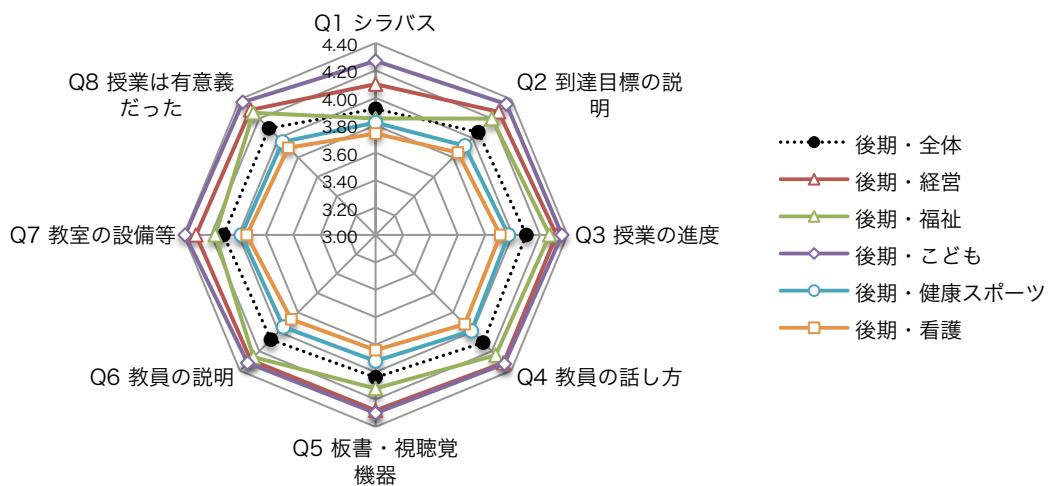
	後期・全体	後期・1年	後期・2年	後期・3年	後期・4年
Q1 シラバス	3.92	3.87	3.91	4.09	4.14
Q2 到達目標の説明	4.06	3.98	4.07	4.25	4.28
Q3 授業の進度	4.10	4.01	4.13	4.27	4.35
Q4 教員の話し方	4.11	4.01	4.13	4.28	4.39
Q5 板書・視聴覚機器	4.04	3.93	4.09	4.20	4.27
Q6 教員の説明	4.08	3.98	4.10	4.26	4.31
Q7 教室の設備等	4.11	4.01	4.16	4.24	4.27
Q8 授業は有意義だった	4.10	4.00	4.13	4.26	4.35

2.4 学科別

前期 :



後期 :



	後期・全体	後期・経営	後期・福祉	後期・こども	後期・健康スポーツ	後期・看護
Q1 シラバス	3.92	4.10	3.85	4.27	3.82	3.74
Q2 到達目標の説明	4.06	4.27	4.20	4.35	3.92	3.85
Q3 授業の進度	4.10	4.32	4.27	4.36	3.97	3.91
Q4 教員の話し方	4.11	4.32	4.24	4.33	3.99	3.92
Q5 板書・視聴覚機器	4.04	4.28	4.12	4.30	3.92	3.84
Q6 教員の説明	4.08	4.29	4.26	4.32	3.95	3.87
Q7 教室の設備等	4.11	4.31	4.17	4.39	3.98	3.94
Q8 授業は有意義だった	4.10	4.29	4.26	4.37	3.96	3.90

平成 24 年度 FD 推進委員会 活動記録

平成 24 年

5 月 9 日 (水) 平成 24 年度第 1 回委員会

- 議題：1) 学生写真台帳の配布・公開について
- 2) 授業アンケートの実施について
- 3) その他

5 月 30 日 (水) 平成 24 年度第 2 回委員会

- 議題：1) 学生写真台帳の Web 公開について
- 2) 授業アンケートの改善について
- 3) その他

6 月 13 日 (水) 平成 24 年度第 3 回委員会

- 議題：1) 前期授業アンケートについて
- 2) Web 学生写真台帳の説明文の配布について
- 3) その他

6 月 13 日 (水) Web 学生写真台帳を公開

7 月 11 日 (水) 平成 24 年度第 4 回委員会

- 議題：1) 授業アンケートの設問について
- 2) FD 推進委員会の行事について
- 3) その他

7 月 9 日 (月) ~ 31 日 (火) 前期授業アンケート調査実施

11 月 14 日 (水) 平成 24 年度第 5 回委員会

- 議題：1) 後期授業アンケートについて
- 2) 今後の FD 推進委員会の行事について
- 3) その他

12 月 13 日 (木) 平成 24 年度 FD 研修会

テーマ：困り感のある学生、困った学生への支援

講 師：福祉健康学部こども学科 大西理恵子 講師

平成 25 年

1 月 9 日 (水) 平成 24 年度 FD 講習会

テーマ：基本統計

講 師：経営学部経営学科 福井正康 教授

1 月 17 日 (木) ~ 30 日 (水) 後期授業アンケート調査実施

3 月 8 日 (金) 第 8 回私の授業発表会

授業発表と参観報告：福祉健康学部こども学科 林原 慎 准教授
福祉健康学部こども学科 長岡由記 講師

3 月 30 日 (土) FD ニュースレター第 9 号発行

編集後記 FD ニュースレター第 9 号をお届けします。平成 24 年度から、学務・就職支援情報管理システム「ゼルコバ」が本格稼働して学生指導の ICT 環境が充実しつつあります。新年度からの FD 活動にもこの ICT 環境の活用が考えられます。新年度の FD 推進委員会の活動に期待したいと思います。一年間のご支援、ご協力、ありがとうございました。(H.T.)